

# THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA



第 91 回 例会

1961年4月4日(晴)

## 次 回 例 会

— 4月11日 —

卓話予定 「運送業の現況と当面の問題」

河村秀一郎君 (会員)

### 出 席 報 告 田中君

本日の出席	会員数	43名	出席者	小花君 板垣君 齋藤(栄)君、谷口君、福島君
	出席数	38名		以上5名
	出席率	88.37%		
前回の修正	前回出席率	83.72%	メイクアップ	3/29 酒田RC 五十嵐君 鈴木君 佐藤(寅)君
	修正出席数	3名		
	確定出席率	90.27%		

司 会 金井(国)副会長

ビジター 渡辺一君(山形RC)

報告及び連絡 金井副会長より

丸谷君御転任に際して、送別の会は如何にしたらよいか御諮りし度い。

広瀬君： 他RCの例など参考にして、例会でビールの乾杯位とし、餞別、記念品など贈ること、或いは普通送別会に用いる費用を社会奉仕に活用する。というような方法は如何か。

金井副会長： 広瀬君の御提案に略々賛成である。尚会長が帰られてから相談申上げる。

### ビジター 渡辺一君のお話

御当地の外内島の山形木材に、以前から時々来訪していた。東北では珍しいベニヤ板工場である。当家にも時々会合に訪れた。山形RCは創立以来15年位になるが、当初からの会員である。出席がやかましかった。当時は仙台、郡山、東京などでメイクアップしなければならなかった。東北地方の人はなかなか勤勉で成績がよい。殊に最近では天童など、附近のRCは競走で頑張っている。メイクアップもし易いので好成績である。

## 鶴岡ロータリー・クラブ

事務所 { 山形県鶴岡市三日町  
鶴岡商工会議所内  
(TEL 123・1563)

例会日 火曜日  
例会場 ひさごや  
(TEL 707)

吾々は忙しい仕事をもっている、100%の出席はむづかしい。ガバナーは週一回の出席が出来ないような事業家は敏腕ではないという。静岡では出席率35%などという人があつた。

木曜は東京北RC上野松坂屋での例会がある。その受付で登録だけやつてすぐ帰ってしまう人もあるという。よく考えてみなければならない現象である。

山形RCでは当初は親睦を目的として普通例会では半数位、フィアサイドミーティングでは常に酒が出た。しかしその後考慮され、酒は止めになった。乍然昨年の7月頃から月初めのお誕生祝を機会に、1人当りお銚子に半分位の酒が出てほんのりとする、親睦の為によいのでまだ続けている。

出席と親睦を兼ねて近隣クラブとのマージャン会など、趣味を生かして会合し面白くやつている。少々やわらかい方面だけ申上げたようであるが、此のようなことも実際に即した方法の一つである。

## 幹事報告 佐藤(貞)幹事

### 1 チャーター伝達式案内

北上、水沢合同チャーター 4月23日11時より

小野RC 5月7日12時より

十和田RC 5月13日10時30分より

### 2 例会場変更 豊田RC、例会場を東海銀行豊田支店に変更

### 3 新クラブ 泉佐野RC 例会木曜12時30分

### 4 例会休会 東京銀座RC 4月29日は祝祭日の為休会

### 5 会報到着、東京、日本橋、弘前東、八戸東、湯沢、山形西各RC

## 出席報告 田中君 別項

## スマイル報告 五十嵐君 別項

## 卓話 『本庄正宗出現の地』 中台吉郎君(会員)

元和3年酒井忠勝公信州松代より入部せらるる前の時代に話は逆上ります。

武藤家の初代は庄内物語に武藤景頼源平合戦の折捕われ、梶原景時に預けられ、弓馬の達人なる為赦免あつて出羽国庄内を賜う。とありますが東鑑九巻によれば文治6年11月7日、御入洛行列説明の中に御調度懸武藤小次郎資頼とあり、景頼は資頼の誤りと見られています。

頼朝に選抜せられて庄内の地頭となりました。それ以来19代義氏の時代になりますと天正元年義氏、家を継ぎ尾浦城主となりました。性剛勇にして猪勇を好み暴虐にして権勢を誇り領民塗炭の苦しみあい人心離反して、悪屋形と称へ、領内の農民徒党を組み、不穩の極に達したと伝えられています。

之武藤家の没落前兆であります。最上義光、越後の上杉両雄時来りなばと準備怠りなかつたと思われれます。武藤家の重臣、東禅寺筑前は東禅寺城代(酒田)、前森蔵人は大梵寺城(鶴岡)、この二人は最上家側に通じたる者であり、他に念珠ヶ関鎮台、及び小国城代の小国因幡、又一人武藤家の城代佐藤備中の二人は上杉系である村上城主本庄繁長派に属して最上、上杉両雄の二派に別れて抗争して居りました義氏に子が居ない為、上杉の家臣勇将として聞えた村上城主本庄繁長は其の子千勝丸を養子とする事に成功しました。千勝丸庄内に入り鳥帽子名を四郎次郎といい武藤の姓を帯びノカオにして上洛、左京大夫出羽守義勝と名のりました。

一方大梵寺城代、前森蔵人、東禅寺筑前等は義氏の暴虐黙し難く、農民等と力を合せて主たる義氏を征し切腹に至らしめました。時天正13年3月であります。然る後義氏の弟、義興をして跡目相継せしめ、上杉系よりの養子義勝を害さんとして画作したのでありますが、上杉側にとつては誠に立派な理田を握つたことになりました。義興は丸岡兵庫頭義興といい暗遇凡庸の士といい伝えられて居りますが、到底此の難局を切り抜けるには容易ならざる時勢のことと考えられますが、一

方の義勝は難を去ける可く佐藤備中小国因幡等の力で小国城に匿れたりといわれて居ります。

最上義光は我意を得たりと中山玄蕃に兵 8千騎を従えて間道、関川、鬼坂峠の要害地を警備し越軍に備えたといいますが、上杉も備え固き間には出ては来られません。時去りて3年、防備も緩みたるを見て越後の軍勢5千6百の兵員を卒ひ天正16年8月、忽然として念珠関の険を越え小国城に至り、鬼坂峠を越えて庄内平野に入ってきました。

総大将は戦上手の本庄繁長であります。

繁長作戦として一隊を大山尾浦城に派して一期に之を打てば尾浦城は乱戦となり、自分は残余を卒いて高田村にひそみ戦況をみ守りたる所、大梵寺城には東禅寺兵も加わつて守備の者が尾浦城の炎上を発見して、急拠総力をもつて援助に向いました。

繁長勝利は我にありと喜び、空の大梵寺城を炎上せしめ長駈して之も尾浦城に向いました。

漸くにして十五里ヶ原なる千安川畔にて援助に向つた武藤勢は大山尾浦城を落城せしめ、上杉勢と後より追付きの軍勢とに相はさまれて全くの敗戦となりました。

東禅寺筑前の弟にて同苗右馬頭勝正は大剛の士であり、何とか一太刀怨まんと唯ノ人本庄繁長の本陣地に入りて繁長に一太刀を与えましたが、額に疵を与えた程度で45才を以つて討死しました。此の時繁長この厚き鉄兜を切り割りたるは稀代の名刀ならんと上杉景勝に献じ、後秀吉に入り島津兵庫義弘に入り徳川家に献ぜられて当時の鑑定家本阿彌によつて正宗と極められ、永く本庄正宗として世に聞えた名刀であります。

日本刀講座末尾に曰く、千安阿畔の田の中に古塚56基あり、ノは草刈塚と称し、草刈寅之助の塚にして、ノは東禅寺右馬頭の塚なり、老松亭々として茂り、風無きに颯々の声あり、雄魂永えに夫れ何をか物語るものあらん。とあります。

天正10年 本能寺の変

天正16年 聚楽第行幸

中央の出来事を添えて時代参考にします。

昭和36年4月4日

**その他** 3月皆出席者31名 今月で1ヶ年100%出席率の人5名

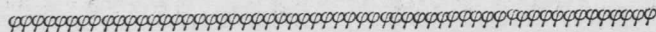
春暖 桜のつぼみふくらみ梅はほころびそう。

## SMILEBOX

(ニコニコ) 大野君、お嬢さんの御結婚と早退で。  
佐藤(寅)君、齋藤(得)君、菅原君欠席で。

## 会員の慶憂

大野君のお嬢さん御結婚おめでとう。



## 本日の献立

御飯	鱈汁(味噌汁)	(きょうり醤油かけ)
鯛切り身素焼	平目刺身	
玉子焼(添物)	(うどんせん切り)	